

## ボツワナ共和国月報(2019年10月)

### 主な出来事

#### 【内政】

- 独立選挙委員会, 1757名の立候補届を受理
- 大統領候補者討論会の開催
- 情報保安局職員の逮捕
- 総選挙の実施, マシシ大統領の続投
- SADC, AU選挙監視団, 選挙を自由で公平と賞賛

#### 【外政】

- ボツワナ人のSADC行政裁判所判事就任に係る宣誓
- 日本大使館, 二つの草の根無償資金協力事業に署名

#### 【経済】

- デビアス社の第8期ダイヤモンド原石売上の減少
- 2020年の穀物生産, 良好となる見通し
- IMF, 今年のボツワナの経済成長率予測を下方修正

※当地メディア記事等を任意に引用した内容です。

#### 【内政】

##### ○ 独立祝賀式典の開催

9月30日, ボツワナの独立53周年を祝賀する式典が国立競技場で開催され, マシシ大統領等が同式典に参加した。(2日: デイリー・ニュース紙)

##### ○ 独立選挙委員会, 1757名の立候補届を受理

独立選挙委員会(IEC)へのインタビューによると, 10月23日に行われる総選挙において210名(その内, 無所属23名)が57選挙区で国会議員に立候補し, 1547名(その内, 無所属199名)が地方議会議員に立候補した。IEC広報担当職員は, 総選挙には150万人の有権者の内, 約92.5万人が有権者登録を行い, 投票は全国の2260か所の投票所で行われる旨発言した。(4日: デイリー・ニュース紙)

##### ○ 中国企業による契約解除見直しを求める訴えの棄却

控訴裁判所は今週, China Jiangsu社が落札した15億プラ規模の入札事業を政府が取消したことが合法であり, 公共の利益にかなっているとの判決を下した。また, 控訴裁判所裁判官は, 提出された証拠を熟慮した結果, China Jiangsu社の訴えを棄却し, 同じく中国企業であるZhengtai Group社を正当な落札企業であるとの判決を下した。China Jiangsu社は当初15億プラでマウンにおける配水ネットワーク, 衛生, 遠隔測定等の設計と施工を落札した一方で, Zhengtai Group社は

僅か3億プラだけChina Jiangsu社よりも高い入札書を提出したものの、同金額(3億プラ)の約半分が調達コストの見込みよりも上回っているため、入札評価で次点となっていた。(5日:ウィークエンド・ポスト紙)

#### ○ 西部バイパス・インターチェンジ建設事業の起工式の開催

7日、西部バイパス・インターチェンジの建設事業の起工式が開催され、ヴァン・デル・ウェスタン地方自治開発大臣、マカト運輸通信大臣、トウトウルウェ・ハボロネ市長等が同式典に参加した。マカト運輸通信大臣は、4.4億プラ規模の同事業が予算の範囲内で予定通りに完了されるべきであり、また、仕様書に規定された質が確保されるべきである旨発言した。同事業は2021年10月に完成する予定である。Zhong Gan Engineering社は、China Jiangsu International社とUNIK Engineering社の合併企業である。(8日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ 選挙に係る違法行為の疑い

独立選挙委員会(IEC)は、ティレロ・セチャバ(当館注:当国の青年支援プログラム)への参加者がモレポロレにおいて罪に問われ、警察の捜査を受けていることを認めた。IECによると、同参加者はある政治家に対して有権者の名前、連絡先などの秘密情報をIECの許可を得ずに共有した疑いで逮捕された。IECは、警察の捜査の結果を待って、次の処分を検討する由。(16日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ マウンにおける20億プラ規模の水プロジェクトの開始

14日、マウンにおける20億プラ規模の水供給・衛生プロジェクト第二期の開始を記念する式典が開催され、ムズニラ国土・水・衛生サービス大臣らが同式典に出席した。同プロジェクトはマウン及び周辺村における水へのアクセスと衛生サービスの改善を目的としており、2022年10月までに完了する見込みである。(16日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ ストライキに参加し解雇された公務員の再雇用計画の発表

15日、マシシ大統領は2011年にボツワナで最大の公務員によるストライキに参加し、解雇された公務員を再雇用することを計画している旨発表した。(17日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ 大統領候補者討論会の開催

16日、ボツワナで初の大統領候補者討論会が開催され、大統領候補者であるマシシ・ボツワナ民主党(BDP)党首、ボコ野党連合民主改革のためのアンブレラ(UDC)党首、ハオラテ革新連合党(AP)党首及びブタレ・ボツワナ愛国戦線(BPF)党首が同討論会に参加した。同討論会の模様は国营ボツワナ・テレビ、ラジオ・ボツワナ、デイリー・ニュースのライブストリーミングなどで放映された。(18日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ 独立選挙委員会, 在外投票を受領

独立選挙委員会(IEC)は、在外で実施された投票を受け取った。1044名のボツワナ人が在外投票のための有権者登録を行っている。在外投票は国外に居住するボツワナ人のために10月12日に世界36か所で実施されたが、日本での実施のみ当日直撃した台風の影響で延期され、10月14日に実施された。(18日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ 情報保安局職員の逮捕

ロバート情報保安局(DIS)報道官は、バタフライのコードネームを持つコシ前DIS局長の仲間であるマスワビDIS職員が18日に逮捕され、11月1日にブロードハースト裁判所において保釈聴聞会が行われることを認めた。マスワビ職員は2008年から2018年の間にボツワナ銀行の口座から海外の銀行口座に数十億ブラの不審な送金に関与している疑いで捜査されていると言われており、また複数のパスポート、身分証明書を所持している疑いで捜査されていると言われている。(23日:ボツワナ・ガゼット紙)

#### ○ 総選挙の実施, マシシ大統領の続投

23日に実施された国民議会選挙では、ボツワナ民主党(BDP)が38議席、民主改革のためのアンブレラ(UDC)が15議席、革新連合党(AP)が1議席、ボツワナ愛国戦線(BPF)が3議席を獲得した。与党BDPが過半数以上の議席を獲得した結果、マシシ大統領の続投が決定した。また、総選挙ではボコUDC党首、ハオラテAP党首、マカト運輸通信大臣、ブタレBPF党首などの大物政治家が落選した。(25日:デイリー・ニュース紙, メヒ紙, 28日:モニター紙他)

#### ○ SADC, AU選挙監視団, 選挙を自由で公平と賞賛

25日、SADC及びAUの選挙監視団はメディア及び関係者に対して選挙監視暫定結果についてブリーフィングを行った。SADC選挙監視団長であるモヨ・ジンバブエ外務国際貿易大臣は、選挙プロセスが透明性のあるものであったと賞賛し、投票前及び投票中のプロセスがよく準備されており、平和的で自由な雰囲気の中で実施され、その環境により、有権者が透明性のある形で自身の表現することを可能にした旨発言した。また、AU選挙監視団長であるファトウマタ・ガンビア元副大統領は、選挙プロセスが信頼性のあるものであり、公平であった旨発言した。(28日:デイリー・ニュース紙)

#### ○ 大統領就任式日程の発表

27日、政府は大統領就任式を11月1日に開催することを発表した。(27日:政府フェイスブック)

## 【外交】

### ○ モザンビーク大統領及び国会議員等選挙に関するSADC監視団への参加

大統領府の報道発表によると、政府はレグアイラ大使及びカトロ氏を15日に行われるモザンビークの大統領及び国会議員等選挙のSADC選挙監視団員として指名した。レグアイラ大使は国連代表などの職を歴任し、カトロ氏は前汚職・経済犯罪局長である。両氏は3日に出発し、18日に帰国する予定である。(3日:デイリー・ニュース紙)

### ○ ナミビア難民, カナダ再定住の可能性

カティ司法・国防大臣は、再定住のために国連により許可を与えられたカプリビ回廊からのナミビア人が5名おり、再定住に向けて現在調整しているため、これらの5名が強制送還されていない旨発言した。同大臣は5名の名前については言及しなかったが、5名はナミビア政府から1998年の暴動で国家反逆罪に問われているものであると言われている。グプタUNHCRボツワナ事務所代表は、5名が再定住に向けてカナダに行くかどうかについて明言しなかった。(4日:メヒ紙)

### ○ ボツワナ人のSADC行政裁判所判事就任に係る宣誓

7日、SADC行政裁判所の臨時会合において、ボツワナ人のモナヘン判事はSADC行政裁判所判事としての宣誓を行った。同判事の指名は本年8月15日から効力を有している。モナヘン判事はアフリカ人権委員会の委員長、ガンビア高等裁判所の専門判事、スワジランド高等裁判所の高等判事、国際刑事裁判所判事などを歴任している。SADC行政裁判所は2015年8月に設立されたSADC事務局及びその下部組織における労働争議の処理を行う機関であり、異なるSADC諸国の7名の判事で運営されている。(9日:デイリー・ニュース紙)

### ○ 韓国大使館, 生理用品を寄付

韓国大使館は10万個の生理用品を基礎教育省に寄付した。引渡式には、リー韓国大使館参事官、生理用品製造企業である M view Global 社のキムCEO、アロネ基礎教育大臣などが参加した。(11日:デイリー・ニュース紙)

### ○ 政府, フォーブス社とアンダー30サミットの開催につき交渉中

マシシ大統領は政府が2020年4月にアンダー30サミットをハボロネで開催することについて、フォーブス社と交渉中である旨発言した。同イベントには600名の世界の最も優れた社会起業家、200名の開催国の参加者、世界中から最も優れた30歳以下の200名が参加する。政府とフォーブス社との交渉が成功すれば、ボツワナ人は優れた社会起業家、創設者、クリエイターと人生が変わるような数日間を過ごすことになる。(21日:モニター紙)

### ○ 日本大使館, 二つの草の根無償資金協力事業に署名

29日、竹田大使は草の根無償資金協力事業「東モヘンボ村小学校建設計画」及び「バナ・バレ

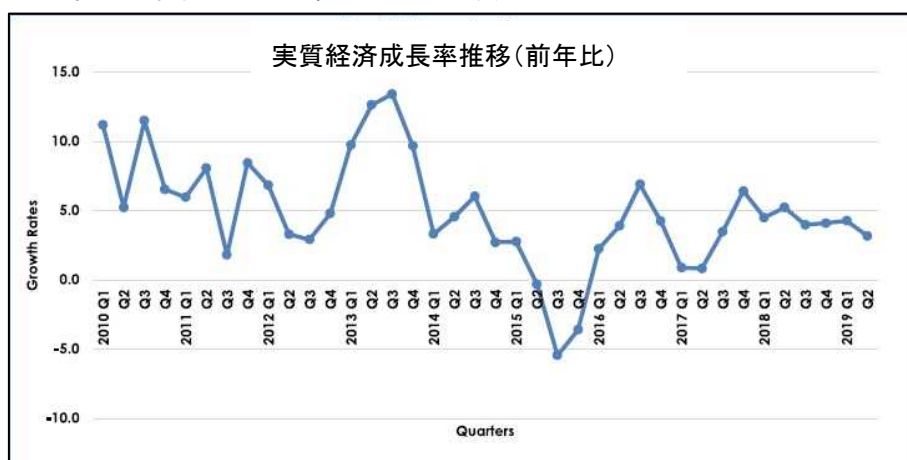
「ツァツイ・リハビリテーション施設新設計画」のための贈与契約に署名する。東モヘンボ村小学校は約90万プラ、リハビリテーション施設は約81万プラを受け取る見込みである。(30日:デイリー・ニュース紙)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

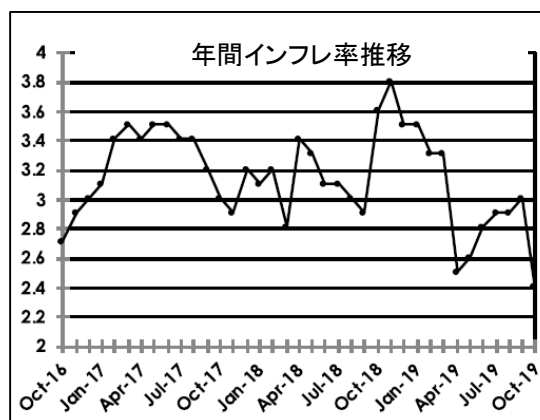
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2019年第2四半期の GDP は492億4170万プラとなり、第1四半期(488億5020万プラ)と比べて1.4%増となった。(2018年GDP合計は1898億6850万プラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2019年10月は2.4%(9月は3.0%)。



3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2019年10月31日

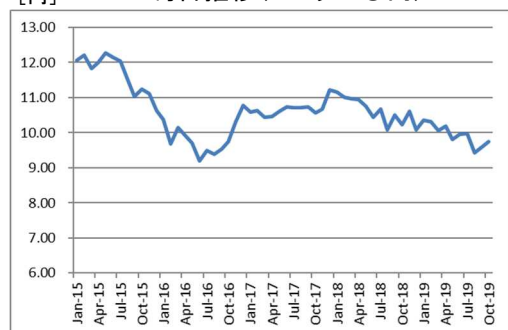
- 1プラ=0.089米ドル
- 1プラ=1.324南ア・ランド
- 1プラ=9.75円

- 2019年9月27日
- 1プラ=0.088米ドル
- 1プラ=1.320南ア・ランド
- 1プラ=9.57円

[米ドル] 為替推移(1プラ=〇米ドル)



[円] 為替推移(1プラ=〇円)



## ○ ダイヤモンド産業

### 1) デビアス社の第8期ダイヤモンド原石売上の減少

デビアス社の親会社アングロ・アメリカン社の発表によると、ダイヤモンド世界市場の不況が続きデビアス社の第8期ダイヤモンド原石販売会における売上は2億9500万米ドルとなり、前年同時期の売上4億8200万米ドルより39%減少した。(5日:サンデー・スタンダード紙, 11日:メヒ紙)

### 2) デブスワナ社の第3四半期ダイヤモンド生産、需要の低下にもかかわらず、安定

デブスワナ社(当館注:ボツワナ政府とデビアス社との合弁企業)の第3四半期のダイヤモンド生産量は、ダイヤモンド世界市場の需要の低下にもかかわらず、第2四半期の生産量とほぼ同規模の570万カラットとなった。(25日:メヒ紙)

### 3) ルカラ・ダイヤモンド社、ボツワナの宝石デザイナー向けのコンペを開催

ルカラ・ダイヤモンド社(カナダ)は、ボツワナの宝石デザイナーに対してコンペに参加するよう呼びかけた。同コンペは10月に開始され、11月29日が締め切りとなっており、入賞した宝石は2020年のアカデミー賞もしくはグラミー賞で使用される可能性がある。使用后、宝石はレタカネ地区の学校の建設を目的とした資金調達のためにオークションにかけられる見込みである。また入賞者はアカデミー賞もしくはグラミー賞の受賞式に出席することができる。コンペは18歳以上のボツワナ人を対象としている。(28日:モニター紙)

## ○ 2020年の穀物生産、良好となる見通し

食料・農業に関する世界早期警報情報システム(GIEWS)によると、2020年のボツワナにおける穀物生産及び家畜生産はポジティブな雨期の予想により、おおかた良好となる見通しである。今年の穀物生産が雨量の不足から平均を下回った結果、今年の食料供給の不安定さは悪化し、2020年初めまで不安定な状況は続く予想されているため、2020年の穀物生産が良好となるという予測は農家及び国民にとって喜ばしいことである。(5日:ウィークエンド・ポスト紙)

#### ○ ファーウェイ・ボツワナ社, ICTコンペを開催

ボツワナにおいて, 2019年・2020年南部アフリカ・ファーウェイICTコンペがボツワナ大学, ボト大学, ボツワナ会計大学, ボツワナ国際科学技術大学, ボツワナ・オープン大学の5大学と共同で開始された。2019年・2020年ファーウェイICTコンペは, 2019年11月から2020年5月にかけて地方予選, 国内予選, 地域予選及び決勝世界大会の4段階で開催される。現時点で800名以上のボツワナ学生が同コンペに参加の申し込みをしている。(11日:メヒ紙)

#### ○ ボツワナ・イノベーション・ハブと経済特区局の覚書締結

ボツワナ・イノベーション・ハブ(BIH)と経済特区局(SEZA)は革新的な製品を市場に売り込むことを目的とした覚書を締結した。ボツシュワエンBIH代表は, 覚書の締結により, BIHとSEZAが将来のインフラ開発における協働が可能となる旨発言した。(14日:モニター紙)

#### ○ IMF, 今年のボツワナの経済成長率予測を下方修正

国際金融基金(IMF)は, 市況商品価格の低下と世界的な貿易を巡る緊張から今年のボツワナの経済成長率予測を当初の3.9%から3.5%に下方修正した。一方, 最近, ボツワナ政府は経済成長率予測を4.2%から4.3%に上方修正している。(18日:メヒ紙)